



背景

平成16年(2004)9月29日に鹿児島県に上陸した台風21号は、四国を通過し、近畿、北陸、東北と日本を縦断しながら各地に被害をもたらしました。香川県内では29日午後、台風本体の雨雲がかかり始め、19時前後には観音寺市などを中心に時間雨量が60mmを超える豪雨となりました。この豪雨により県内各地で土石流などによる土砂災害が発生し、家屋や農地等に甚大な被害が出ました。しかし、死者、負傷者等の人的被害はありませんでした。この話は、当時消防団長として危険箇所の住民の避難誘導に関わった人の証言です。

アクセス 砂防堰堤群 (大野原地区)

- JR豊浜駅より東南東へ直線距離約5km
- 観音寺市大野原町萩原地区
- 緯度経度 北緯34度03分45秒, 東経133度40分27秒



平成一六年(二〇〇四)台風二一号を消防団長として経験した人の話です。土石流の危険性のあるところで生活している住民には、役場から自治会長に連絡を入れるなどして避難するよう促しました。ほとんどの住民は指示に従ってくれましたが、避難してもらえない人が一〇人くらいいました。再度、自治会長さんが連絡してくれたり、地元の消防団員が行ったりして説得したのですが、最後の一人は説得に応じようとしなないと連絡がありました。

「心配せんでもええ。この土地に何十年住んどると思うんや。ここの地形などは、わしはよう知つとるんや。お前ら下から来た者が何を言よんぞ。わしは残つて自分の家を守るんや」と、いくら説得してもだめだとのことでした。そこで、私が直接、家に行つて説得に当たりました。「言われることも、家を守りたい気持ちも本当によく分かります。でも、今度の台風はもの凄い雨を降らせませす。土石流が出たら逃げられませんで、何とか避難して頂けませんか」と一〇分か一五分くらい話しました。それでも応じてもらえないので、最後には土下座してお願いし、何とか避難していただきました。

日本全国でいろいろな災害が起きていると新聞等で見聞きしても、それはよその事で、ずっと昔から災害等のない土地なので危機意識がなかったのです。今でも実際に中位の土石流に遭った経験のある人でも危機意識は低い。この前は、ここまでで止まって被害がなかったのだから、次回もそこまでは心配ないだろうと思つている人がいるのです。

まず避難勧告を住民が守ってくれることが一番だと思います。